

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a1 現代経済と企業活動a		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	林 徹	責任部局	経済学部
趣 旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史の変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的とする。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って統一的に学ぶことが可能となる。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わない。経済や企業について広く関心を持ち、先人や他者から謙虚に学び、自主的に学習を進める意欲をもった学生の受講を希望する。また、日々の新聞やニュースを見たり読んだりすることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講しなければならない。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
国際社会と日本経済	成田 真樹子	経済活動は国境を越え、グローバル化が進展している。貿易は資本・労働の移動、地域統合などの問題を通じ、グローバル化による効果とその課題について理解する。	貿易 投資 グローバル化
企業行動と戦略	林 徹	ボードゲーム MONOPOLY(Windows 英語版)を用いる。ルールの完全理解と、資産(主に不動産と公共事業)の運用(売買・交換・賃貸)を通じて、淑女・紳士的な交渉術と大局観を培う。	ストックとフロー、 抵当権、銀行係、 刑事施設(Jail)
社会制度と経済活動	千野 厚	金融市場が、消費者や企業の活動に、どのような機能を果たしているかを多面的に考察する。また、金融市場が効率的に作用するための制度・法律面に関する考察も行う。	市場 金融取引 金融制度

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	A	B	C	D
国際社会と日本経済	◎	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
企業行動と戦略	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
社会制度と経済活動	◎		○	◎	○		○		○	○			◎	○	○
◎(特に重視)の数	3	1	0	3	1	1	2	2	2	2	0	3	1	2	
○(重視)の数	0	1	3	0	2	1	1	0	1	1	2	0	2	1	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a2 現代経済と企業活動b		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	岡田 裕正	責任部局	経済学部
趣旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動をもとにして成立している。こうした仕組みを、その原理や制度、企業経営、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的な視点を獲得することを目的とする。本モジュールにより、経済学や経営学の基礎を履修することになる。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、学習を進めていくことに関心のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾けることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講しなければならない。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
国際社会と日本経済	山岡 時生	グローバル化が進展する中、他国や国際機関と日本経済との関りが益々深いものとなってきている。本科目では、貿易自由化、保護貿易的政策、途上国の問題、食料・エネルギー安全保障、知的財産権の保護、環境保護など、幅広い国際社会の課題について考察したい。	貿易自由化 保護貿易 途上国 WTO 地域貿易協定
企業行動と戦略	岡田 裕正	本科目では、企業行動の前提となる各種意思決定や業績評価、さらにこれらを集約した利益計画の概要と基礎について、時に例題も用いて考察する。可能であれば、外部講師による講演と組み合わせたグループ学習も取り入れたいと考えているが、未定である。	意思決定 業績評価 利益計画
経営情報と会計情報	津留崎 和義	本科目は「イノベーションをおこす思考の型」を学習し、価値創造に必要なスキルを身につける。合わせて、グループ学習を通して「前に進む力」「考え抜く力」「チームで働く力」といった社会人基礎力を涵養する。	イノベーション 価値創造 ビジネスモデル

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への取り扱う	A 人文科学の内容を取り扱う	B 社会科学の内容を取り入れる	C 現代的な話題を取り入れる	D アクティブラーニングの活用
国際社会と日本経済	◎	◎		○	○		○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎
企業行動と戦略	◎	○	○	○		○	○	○	○	○		◎	○		○
経営情報と会計情報	○	◎		○	○		○	◎	◎	○		◎	◎	◎	◎
◎(特に重視)の数	2	2	0	0	0	0	0	2	2	1	0	3	2	2	2
○(重視)の数	1	1	1	3	2	1	3	1	1	2	1	0	1		1

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a3 環境マネジメント		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	山下 敬彦	責任部局	研究開発推進機構
趣旨	21世紀市民のコモンセンスとして環境配慮への理解と環境保全に関する知識を修得し、人類の持続可能な発展(sustainable development, SD)を実現するための基本的な姿勢を身につけることを目的としている。そのため、日本のエネルギー事情、環境汚染物質マネジメント、エネルギー・マネジメント等を理解し、研究・開発や企業・法人等における管理業務にも役立つものとする。あわせて、長崎大学におけるエネルギー管理、廃液処理などの実際に触れさせることにより、化学物質の取扱い、実験廃液・廃棄物の処理、エネルギー管理などに関心をもたせ、コミュニティの一員としての自覚を促し、長崎大学のよりよい環境を実現する一助とする。		
学生の皆さんへのメッセージ	私達 21世紀市民が目指すのは、人類の持続可能な発展(sustainable development, SD)です。そのためには、環境保全の実際を理解するとともに、環境配慮への理解を深めることが必要です。本モジュールは、そのような観点から環境保全に関する学習を行います。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
エネルギー・マネジメント	山下 敬彦	エネルギー・マネジメントの実際を理解するとともに、エネルギーに関する長崎大学の現状と課題について理解を深め、長崎大学コミュニティの一員としてとるべき行動について理解を深める。	エネルギー・マネジメント、とるべき行動
有害化学物質のマネジメント	久保 隆 真木 俊英	有害化学物質のマネジメントについて理解するとともに、長崎大学における廃液処理の実際を見学し、長崎大学コミュニティの一員としてとるべき行動について理解を深める。	有害化学物質のマネジメント、廃液処理
廃棄物のマネジメント	竹下 哲史	廃棄物の処理に関する法律等を理解するとともに、廃棄物の分別を体験し、廃棄物のマネジメントに関する知識と理解を深める。	廃棄物の処理、廃棄物のマネジメント 長崎県

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 関心 国際・地域社会への	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
											取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブラーニングの活用
エネルギー・マネジメント	○	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎
有害化学物質のマネジメント	○	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○		○	○	◎
廃棄物のマネジメント	○	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○		○	○	◎
◎(特に重視)の数	0	3	0	3	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3
○(重視)の数	3	0	3	0	3	3	3	0	0	3	1	3	3	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a4 社会と文化の多様性		
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	ルディ・トート	責任部局	多文化社会学部
趣旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に世界を知る必要に迫られている。そして、このことは必然的に日本(と日本人)を知ることをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパといった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、言語などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適應する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「社会と文化の多様性」を学ぶことは、他者を理解し、自己を相対化することに繋がる知的な営みですし、そうした多文化状況で生き抜いていく能力を身につける上で必要なプロセスだと思えます。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
インタラクションと会話の人類学	波佐間 逸博	ヨーロッパの文化と文明の影響力は今なお大きい。本講義では第一に、ヨーロッパ文化の基層について基礎的な知識を得る。第二に、ヨーロッパ文明が世界にもたらした影響を環境面において検討する。	ヨーロッパ 文化、文明 環境、歴史
国道3号線の思想・文化・社会の歴史	森 元斎	近代以降の九州、とりわけ現在の国道3号線沿い周辺域で生じた出来事を、民衆の視線で取り上げ、近代化の流れへの抵抗や、近代的なものからの暴力がどのようになされてきたのかを論じ、民衆がどのように生きてきたのかを明らかにします。これに加えて、九州に住む現在の私たちの思想を学ぶことも目的とします。	近代化、国道3号線、九州、思想史
世界のことばの多様性	ルディ トート	言語学各分野の観点から世界の各言語の様々な表現方法について考察する。日・英語から聞いたこともない言語まで「ことば」というものの多様性に驚きつつ、その表面下にある人間の普遍性を示唆する側面も探る。他言語のある特徴が、日本の共通語にはなくても長崎方言には見られるなどのケースを通じて、日本のことばの多様性についても考える。	音韻論、形態論、 統語論、意味論、 語用論、長崎方言

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 関心 国際・地域社会への	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
											取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
インタラクションと会話の人類学	◎	○		○	◎		◎		○	◎	○	○	○	○
国道3号線の思想・文化・社会の歴史							◎			○	◎	○		
世界のことばの多様性	◎	○		○	○		◎		○	○	◎	○		○
◎(特に重視)の数	2	0	0	0	1	0	3	0	0	1	2	0	0	0
○(重視)の数	0	2	0	2	1	0	0	0	2	2	1	3	1	2

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a5 文化の交流と共生		
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	細田 尚美	責任部局	多文化社会学部
趣旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本（と日本人）を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならぬからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、中東といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなっている様々な多文化状況に適應する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「世界を知り、日本を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
文化人類学でみる世界と日本	細田 尚美	今を生きる私たちには、世界の様々な文化を背景にもつ人々と交流し、ともに暮らすことが求められています。この授業では、異なる文化というときの文化とは何か、その基本を学ぶとともに、異なる文化を理解しようとする方法についても学びます。自分が慣れ親しんだ考え方からいったん離れて現実をとらえなおし、それを基にして新たな考え方が展開できるようになる力をつけましょう。	異文化理解、エスノグラフィー、文化人類学
国際関係論	ヌルガリエヴァ リヤイリヤ	国際関係は人間関係と同じく複雑ですが、おもしろいです。この授業では、複雑な国際関係を理解することと国際関係に関する基本的な判断力を養うことを目標としています。現代の主要な国際問題（たとえば、平和、環境、難民、寛容など）の背景にある歴史、文化、思想、経済の変化はどのように国際関係の学際的な枠組みを作り上げるのかを検討しましょう。	平和と紛争、国際移民、グローバル化、人間の安全保障
文化資源と日本	才津 祐美子	近年、文化を「資源」として捉える動きが活発になっています。それは観光資源だったり、地域振興のための資源だったりするわけですが、文化ーとりわけ地域文化は、もともと資源と見なされていたわけではありません。つまり、「文化は資源である」のではなく、「文化は資源になる」のです。本授業では、観光の歴史や政策、文化財保護制度や地域の実践といった様々な角度から、文化が資源になるプロセスについて学びます。	地域文化、観光、文化政策、文化財、世界遺産、知的財産権

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
											取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
文化人類学でみる世界と日本		○		○	○		◎	○	○	◎	○		○	○
国際関係論				◎	◎		◎	○	○	◎		○	○	○
文化資源と日本	○		○	○	◎		◎		○	◎	○		◎	○
◎(特に重視)の数	0	0	0	1	2	0	3	0	0	3	0	0	1	0
○(重視)の数	1	1	1	2	1	0	0	2	3	0	2	1	2	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目